

先輩方へのアンケート結果

※現3年生が多賀城高校「43回生」です。

※先輩方の文章を尊重するため、できるだけ原文のまま掲載しています。

◇アンケートの質問項目

- ① あなたが現在通っている大学、学部、学科を教えてください。
- ② あなたが今勉強していることを教えてください。
- ③ 多賀城高校での学びが、大学入試にどのように生かされたか、教えてください。
- ④ あなたが考える多賀城高校の進路指導の特徴を教えてください。

N.Mさん(42回生 普通科)

- ① 宮城大学・看護学群・看護学類
- ② 看護師、保健師になるために体の構造を学んだり、英語やグループワークや課題調査など、人間力の向上につながることも勉強しています。
- ③ 多賀城高校での学びで大学入試に生かされたと思うのは、自分で考えて行動する力です。多賀城高校では課題研究やグループワークを積極的に取り入れていて、生徒に考えさせて行動させることを大切にしています。そのおかげで自分の入試のために今なにをすべきなのか、なにが足りていないのかを自分で考えて行動できるようになりました。
- ④ 多賀城高校の進路指導は生徒の希望に寄り添って指導してくれます。自分がしたいことを1番に考えて指導して下さいます。私はAO入試の準備でエントリーシートがあったのですが、その内容も私自身がどうしたいのかを考えた上で書き方のアドバイスをくださいました。

他には生徒自身が協力して進路に向けた取り組みをしています。グループ討論の練習や面接練習など1人でできない準備の時は、すでに受験が終わってる人たちが手伝ってあげていました。このように助け合いながら学年の人が進路目標を達成できるようにしています。

U.N君(42回生 災害科学科)

- ① 岩手大学・農学部・森林科学科
- ② 植物や動物の体内の構造や組織、器官の機能について、高校で学ぶ内容をさらに発展させたようなものを学んでいます。また、フィールドワークもあり、樹木や猛禽類の観察を行うこともあります。
- ③ 私は災害科学科で、校外に出て課題研究の発表をしていたこともあり、人前で話す経験を重ねていたため、面接の時にあまり緊張せず自分のことを話すことができました。校外での発表という経験ができるのは宮城県だと数校しかないと思うので、多賀城高校の特徴の一つだと思います。
- ④ 小論文指導は先生方に指導していただきました。また、面接指導においても、先生とだけでなく、友人同士で面接練習を行い、互いに良かった点、改善した方が良い点を話し合うなど、生徒間で互いに進路目標を達成できるよう協力する場面も見られます。二者面談でも、模試や定期考査の結果から今後どのように勉強を進めていけば良いのか、先生が真摯に対応してくれるため、目標を決める上で役に立つ時間でした。

S.Yさん(42回生 普通科)

- ① 東北福祉大学・健康科学部・リハビリテーション学科・理学療法学専攻
- ② 理学療法士の国家資格を取得するために勉強しています。主に、骨・筋肉・靱帯の構造や、人体の機能、リハビリテーションに関する専門的な内容を学んでいます。
- ③ 普段の授業でグループワークが多かったので、入試で行われたグループディスカッションで積極的に自分の意見を言うことができました。英語検定に向けた指導も丁寧にして頂き、その資格を受験に利用することができました。
- ④ 面接指導では、本当に沢山の先生方に親身になって繰り返し指導して頂きました。また、同じ時期に受験を控える友人、既に進路を決めた友人も快く協力してくれました。筆記試験への対策でも、教科の先生が放課後などにマンツーマンでじっくり指導してくれます。気軽に先生方に協力を頼める、受験で友人同士助け合えるというとても良い環境だと思います。私は、先生方や友人のおかげで自信を持って受験することができました。

C.Mさん(41回生 普通科)

- ① 東北大学・医学部・保健学科・看護学専攻
- ② 看護師になるために必要な専門的知識や技術を身につけるための勉強をしています。病気や怪我を負った人をどのように援助するのかということだけではなく、病気の予防をしたり、患者さんやその家族の心のケアをするために、看護師として何が必要か、などということを学んでいます。また、一般教養として、英語、化学や生物、心理学、哲学なども勉強しました。
- ③ 大学受験に必要な各教科の基本的な知識や解法などは、もちろん多賀城高校で三年間受けた授業から得ることができました。勉強面以外にも、所属していたバレーボール部での活動や部長としての経験、さらには、私が参加した留学プロジェクトを通して、シカゴに行った経験などは、大学入試の面接で生かすことができました。多賀城高校で三年間、勉強と部活動のどちらも充実した生活を送ってきたことが、大学入試の際に自信につながりました。
- ④ 多賀城高校には勉強への意識が高い人も多く、そんな友達と分からない問題を共有したり、教え合ったり、朝から一緒に学校へ行き勉強したりもしました。一人で勉強する時間も大切ですが、友達と勉強する時間を作ることで、楽しく勉学に励むことができると思います。多賀城高校は、お互いに高め合っていけるような仲間を見つけられる高校です。また、私は受験に面接が必要だったので、たくさんの先生に面接練習を手伝ってもらいました。また、大学に提出する志願理由書についても丁寧にご指導してくれた先生にはとても助けられました。どの先生方も、練習に熱心に手伝ってくれましたし、的確にアドバイスをし、様々な視点から意見を言ってくれました。

C.Y君(41回生 災害科学科)

- ① 関西大学・社会安全学部・安全マネジメント学科
- ② 法学、政治学、経済学、経営学、心理学、社会学、理学、情報学、工学、社会医学など様々な分野の観点から自然災害・社会災害の最小化のための方法を学んでいます。
- ③ 私は小論文と口頭試問を含むAO入試で合格しました。小論文や口頭試問では、与えられた課題に対し自分の考えをいかに論理的に組み立てられるかが重要であり、それらの力は災害科学科での巡検や実習によって大きく養われたと感じています。特に一年生のときに参加した浦戸巡検では、どのような過程を経てその現象が発生したのかを積極的に考えられるようになったなど、ものごとに対して深く考察する力が身についた

と実感しています。

- ④ 多賀城高校の進路指導の強みは、校外の研修を受ける機会が他校に比べて非常に充実していることだと思います。一年生のときに参加した、国内外の高校生たちと防災について話し合う「津波サミット」では、他文化との交流による授業だけでは学べない新たな知見の会得や、語学力とコミュニケーション能力の重要性など、大学入試のみならず今後の人生においての必要な多くの教養を研修を通して得ることができました。

I.T君(41回生 災害科学科)

- ① 山形大学・理学部・理学科
- ② 主に理学部では英語・数学・理科についての勉強があります。私はその中で理科系の教科、特に火山噴火などの地球メカニズムについての勉強に力を入れています。
- ③ 多賀城高校ではフィールドワークやグループディスカッションなどのアクティブラーニングを早くから取り入れてました。そのため、他の高校では得られない経験を蓄積し、それを発表・表現する機会に恵まれました。大学入試の項目には、面接があったため、これらの経験は非常に生きました。
- ④ 私が特に印象に残ってるのは、教室と職員室との近さです。この近さとは物理的近さではなく、精神的な近さのことです。多賀城高校では、職員室前で勉強を教えてもらう生徒、面接の練習をする生徒、進路について相談に乗ってもらう生徒などをほぼ毎日見かけました。精神的に職員室が行きやすい場所になっているため、より先生との情報共有がこまめになり、学校側のサポートが受けやすいと感じました。また、面接が必要な受験を考えている人にとっても非常に良い環境です。多賀城高校の先生方は面接練習を快く引き受けてくれるので、不安でも何回でも練習できます。実際に私は30回も面接練習をしました。

S.Cさん(40回生 普通科)

- ① 立命館アジア太平洋大学(APU)・アジア太平洋学部・環境/開発分野専攻
- ② 主に、自然環境と地域住民に配慮したエコ・ツーリズムという観光と、アジア地域の発展途上国における観光と社会的弱者(貧困層や少数民族など)の関係について研究しています。
- ③ 多賀城高校には様々な学びをインプットする場が多かったことと、新しいことに挑戦する生徒を応援し、支えてくれた先生方がいたことが大学合格に繋がったと考えます。学校行事や外部講師を招いた講演会がとても豊富で、現役生だった頃は模擬国連、登山家、青年海外協力隊など様々な業種の方の講演会に参加することができました。このような幅広い世界で活躍する方々との交流や、学校の行事に積極的に取り組むことで、自分も何か新しいことを挑戦してみようという行動力に繋がるきっかけとなりました。今高校生活を思い返すと、私は三年間学校外の活動に力を入れていました。多国籍の高校生・大学生が集うサマースクールや留学プログラム、ボランティアや学生団体など、県内外の様々なプロジェクトに積極的に応募し、当時担任だった先生や、私のことをよく知っている先生に志望理由書の添削や推薦状などをお願いしていました。特に担任の先生は、倍率が高いサマースクールに応募するか迷っていた私に、「まず、勇気を出して応募しなければ受かるものも受からないよ。Cなら絶対に大丈夫だから。」と後押ししてくれ、この言葉が当時の自分の積極性や行動力に繋がったのだと考えています。大学入試でも、この言葉を思い出し自信を持って臨むことができました。
- ④ 多賀城高校の進路指導の良いところは何といっても、担当の先生がたっぷりと時間を割いて指導に当たってくれるところです。大学にはAO入試の活動実績アピールという部門で受験し、書類、面接審査がありました。高校時に取り組んだ活動や、経験の成果を自分なりにアピールすることが求められたため、担当の先生とは1対1の面接練習、志望理由書やエッセイの添削をしてもらいました。特に面接練習では、実際の入退室の仕方

から意見を簡潔に伝える方法、話し方の癖を指摘してもらい、自分が納得するまで先生が指導してくれたおかげで、本番でも本来の力を発揮することができました。多賀城高校に通い、先生から厚いサポートを受けていたからこそ、合格することができたのだと実感しています。

最後に。私は決して学力が高い生徒ではありませんでしたが、多賀城高校に入学し自分の武器となるものを身に付けることができました。現在多賀城高校を志望している皆さんにも、得意なこと、不得意なことがあると思いますが、高校生活の中でこれだけは誰にも負けない、というものを見つけ、磨いてみてください。多賀城高校はそんな皆さんを一番に応援してくれる場所です。皆さんが入学することを、私たち卒業生も心待ちにしています！

S.Cさん(40回生 普通科)

① 東北学院大学・教養学部・地域構想学科

② 今はゼミに所属して、地理学について詳しく学んでいる。地域のインバウンド観光への取り組みや仙台市における高齢化、日本の醤油の生産と流通、観光地の成り立ち・都市開発などその内容は多岐にわたる。これらの内容は、論文を通して学ぶのだが、論文に実際に目を通すことで、4年生になったら書くであろう卒論の書き方も学ぶことができ、図や表の読み取り方も学ぶことができる。

なお、私の所属する地域構想学科では、社会と産業の分野、人と自然の分野、健康と福祉の分野があり、幅広く学べるようになっている。今は、地域の防災、津波や地震の基礎知識や地域とスポーツの関わり、地図や空中写真の読み取り方、地域の社会がどのように構成されているかなど、多くのことを学んでいる。

③ まず、多賀城高校での勉学以外の学びが大学入試にも生かされると考える。多賀城高校では、部活ももちろんであるが、ボランティア活動や国際交流、防災学習など様々なフィールドが設けられており、本人の意思次第ではあるが、勉学以外にも多くのことを学ぶことができる。つまり、様々な経験ができる環境が整っていると言えよう。例えば、私が高校在学中に国際交流を目的としたイベントがあったが、海外の方に東日本大震災や地域の魅力を英語で伝えるという経験もでき、なおかつ自分自身も震災について学ぶことができた。そして、このような経験は、志望理由書にも書くことができ、面接の際にも話すことができる。他の高校ではなし得ない経験を積み、志望理由書も面接の際も一目置かれるだろう。

無論、多賀城高校での普段の授業などの学びも大学入試に生かすことができた。1,2年生でそれぞれの教科、特に国数英の基礎を固め、3年生に応用やセンター試験、大学入試でよく出題される箇所を重点的に学ぶことで、万全の状態での臨むことができる。また、後述のような課外講習で、特に自分の苦手な教科、点数をもっと上げたいという教科を選ぶことで、確実に入試の対策を練ることができ、大学入試にも反映させることができる。

④ 面接指導を受ける機会があったが、自分が受ける大学の分野に合わせて、各々担当教員を振り分けてくれるため、とてもありがたかった。その分野に関する質問ができたり、こういった事例について調べておくの良いなどのアドバイスももらえた。また、他の先生に面接指導をお願いした際も皆快く承諾してくださった。

課外講習も様々な種類があり、その人に合った講習が選べるため、魅力的であったと考える。例えば、受験する大学で使用する数学の分野ごと、数A・数I、数B・数IIのように分かれていた。もちろん、英語や国語の課外講習もあったが、それ以外の日本史や世界史なども個人的に先生に教えてもらうことができた。

また、課外講習の後や放課後などに、面接練習に付き合ってもらったり、お互いにわからない問題を教え合ったりなど、友人たちのサポートにも救われた。時に友人たちと共に学び合い、時にお互いを高め合っていけることができる点も多賀城高校の特徴の一つだと考える。

A. R君(40回生 普通科)

- ① 北海道教育大学岩見沢校・教育学部・芸術スポーツ文化学科
- ② 現在私は教員に求められる力、例えば現在の教育において求められる授業のあり方や工夫、心構え、または生徒指導に必要な生徒とのコミュニケーションのあり方などについて学んでいます。また、芸術スポーツ文化学科の中でもスポーツに特化した専攻に所属しているため、スポーツにおけるパフォーマンス向上や教え方についても深く学んでいます。
- ③ 私は推薦でこの大学に合格しました。入試の選考方法は面接と小論文でした。これらは話し方、書き方はもちろんですが、普段からどれだけ主体的に物事を考え、行動に移しているかが大切です。多賀城高校の部活動や学習における学びは、生徒に考える機会や発表の場を設けてくれます。そのため、自分で考え意見を提示し、行動に移すという主体性が養われ入試に活かしていくことができたと思っています。
- ④ 私の入試において必要であった面接と小論文について記述していきます。面接対策においてはどの先生方も真摯になって手伝いをしてくださいました。そのたびに的確なアドバイスをしてくれたため、始めはとても下手だった私も明らかに日々成長していくのを実感しました。今まで関わりがあまりなかった先生方も対応してくれました。小論文においては担当の先生がついてくださり、私が1つ仕上げるごとに添削、指導を繰り返してくれました。その際には文章の構成方法や言葉使いの決まりといった、自分1人の対策では確認仕切れないことについて学ぶことができました。